

Parite Library



このコーナーでは、男女平等参画をはじめとするさまざまなテーマの本を紹介し、男女平等推進センター「パリテ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひご利用ください。



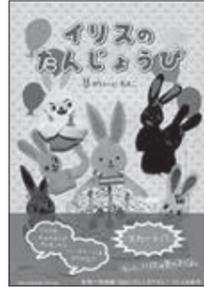
フランスのワーク・ライフ・バランス
男女平等政策入門：EU、フランスから日本へ
編著者：石田久仁子・井上たか子・
神尾真知子・中嶋公子
出版社：パド・ウィメンズ・オフィス

今、なぜフランスのワーク・ライフ・バランスなのか？ 子どもを持って働き続けているフランスの女性、そして男性は？ フランス男女平等政策の全体像を紹介する画期的な入門書。コロナ禍で、働き方や生活スタイルが変わりつつ日本にもヒントとなれば...



ぼくらの戦争なんだぜ
著者：高橋源一郎
出版社：朝日新聞出版

ニッポンの古い教科書や外国の教科書に書かれた「戦争のこと」、国策詩集や兵士の手作り詩集、『野火』や林芙美子・太宰治らの文学作品などを紹介して、語りかけてくれます。「彼らの戦争」と「ぼくらの戦争」について考える本です。



イリスのたんじょうび
著者：がりーどちえこ
出版社：文芸社

「男の子だからスカート履いてはいけないの？」と悩むイリスにお父さんは言いました。「スカートを履いてもズボン履いてもイリスはイリスだ。大好きだよ。」私達は顔の形が違うように肌の色も、好きなものも違う。大人もハッと気付かされる絵本です。

パリテだより

センターパリテでは、さまざまなイベントを開催しています。2022年12月までの主な事業をご報告いたします。



2022年6月18日(土)

お隣り韓国のジェンダー事情
～だから韓流ドラマは面白い!～
講師：山下英愛さん
韓国ドラマという身近なトピックから、韓国のジェンダー平等の変遷を学びました。韓国のジェンダー事情は、日本と似ている部分、日本とは異なる部分があります。韓国ドラマを見るときにも、男女平等の視点から見ると、より多面的に楽しめると思いました。



2022年6月21日・28日(火)

赤ちゃんを創る私の家族
～はじめの一歩～
講師：NPO法人ワーカーズ・コレクティブ ちろりん村FSファシリテーター 生後2～5カ月の赤ちゃんをママ9組が参加しました。赤ちゃんは、親を通して人間として育ち始める大事な時期です。親自身のケアをしながら新しい家族の生活をよりよく築くために、仲間と一緒に日々の子育ての喜びや悩みを語り合い、学びました。



2022年9月9日(金)

カンタン!楽しい!初めてのハーバリウム
～好きな色、好きなお花で世界に一つだけのハーバリウムを作ろう!～
講師：南雲みささん
市内女性起業家「ハンサム・ママ」として活躍する講師によるハーバリウム講座。起業のお話を聞いた後、ハーバリウムを作成し、受講生同士で作った作品を見せ合いました。日頃の疲れがとれてリフレッシュできました。

News!

男女間の賃金格差

日本の男女間賃金格差は縮小傾向にあります。しかし「内閣府 男女共同参画白書(令和4年版)」によると、男性一般労働者を100とした場合の女性一般労働者の給与水準は、平成元年60.2に対して令和3年75.2と増えているものの、男性の4分の3。さらに国際比較では、男性フルタイム労働者の賃金の中央値を100とした場合、OECD諸国の女性88.4に比べて日本は77.5で、欧米諸国よりも格差が大きい状況です。厚生労働省「令和3年賃金構造基本統計調査」で産業別にみると、「宿泊業、飲食サービス業」は男性28.68万円、女性21.5万円、「金融業、保険業」だと男性48.51万円、女性29.29万円で、業種でも大きく変わります。

こうした賃金格差をさらに縮小させるため、女性活躍推進法に関する制度を改正。令和4年7月8日より、常時雇用する労働者301人以上の事業主を対象に「男女の賃金の差異」の情報公表が義務づけられました。事業主は、全労働者・正規雇用労働者・非正規雇用労働者すべての男性賃金に対する女性の割合を公表する必要があります。数値だけでなく自社の実情(男女格差が生じる理由)などを補足することも可能。

女子学生や求職中の女性は、厚生労働省が運営する「女性の活躍推進企業データベース」で検索すれば、気になる企業の女性の賃金事情などを知ることができます。男女間の賃金格差は、採用活動にも影響するため、優秀な人材を得たいと考える企業は、今後、格差の縮小に努めるのではないのでしょうか。

ステキに in 西東京 男女平等参画!

「女性の活躍」編

誰もが生きやすいノーマライゼーション社会へ

社会福祉法人ウーノ 理事長

田辺広子 さん (西東京市在住)



知的障害の子を持つ親の団体「保谷市手をつなぐ親の会」に入会し、障害者を取り巻く状況を知りました。「障害者が安心、安全に暮らせる地域を作りたい」という思いが募り、同じ志を持つ仲間と共に2002年9月に「特定非営利活動法人ハンディキャップサポートウーノの会(以下ウーノの会)」を設立しました。

ウーノの会では、居宅介護、共同生活援助、就労支援、相談支援事業等を行ってきました。例えば働く場「石窯パン工房ウーノ」では、パン職人に一から教わり、職員が試行錯誤を重ねて製造・販売へとたどり着きました。

他の事業も同様に模索しながら一つひとつ立ち上げてまいりました。

2022年1月、ウーノの会はさらに地域福祉に貢献すべく、西東京市より認可を受け「社会福祉法人ウーノ」へと法人格を移行。目下の目標は高等部を卒業した青年の余暇活動の場を立ち上げることです。障害の有無に関わらず、誰もが生きやすいノーマライゼーション社会を目指し、今後も仲間たちと活動していきたいと思えます。



▲「石窯パン工房ウーノ」で働くスタッフと美味しそうなパンの数々